

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
多様性を育むキャリア教育の展開	(全校レベル) I) 児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現 II) 卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 III) 教員の専門性、指導力の向上 IV) ICT機器を活用した教育の推進 <下位組織レベル> ①指導内容系統表をより活用しやすいものにする。 ②子どもたちが自信を持って参加できる授業作りや問題行動の改善のために、全学部で専門家派遣事業を活用する。	評価指標 I) II) ①指導内容系統表について全学部対象のアンケートを行い、「以前より捉えやすいものになってきている」との回答を教員の80%以上から得る。 ②専門家派遣事業を活用したコンサルテーションに参加し、授業作りや問題行動の改善に役立ったと回答した教員が全体の90%以上になる。 活動計画 I) II) ①-1 夏季休業中に、新赴任者及び希望者を対象に指導内容系統表の使い方についての研修を行う。 ①-2 夏季休業中に、昨年度までの項目に加えて、研究課員によって「具体例」を追加する。 ①-3 高等部において、「指導内容系統表」と卒業後の生活を見据えた進路別チェックリストの項目の精選及び内容のすり合わせについて、ワーキンググループを設定し研修を行う。 ②-1 研究課員の中から研修担当を配置し、計画書作成や指導、研修の実施に当たって、担任や担当をサポートする体制を構築する。 ②-2 コンサルテーションを実施し、指導手続きの話し合いの機会を2回設定するとともに学部研修会や報告会を1回以上開催する。	評価指標の達成度 I) II) ①指導内容系統表を改訂し、学校全体で試用。全教員対象にアンケートを行う80%の回答率であった。教員からは以前より使いやすくなったとの回答を教員の85%から得ることができた。 ②コンサルテーションに参加した教員8名にアンケートを実施した。授業作りや進路の指導に対して、問題行動の改善に対して、8名全員が「大変役立った」「役だった」と回答した。 活動計画の実施状況 I) II) ①-1 各学部で、新赴任者と希望者を対象として、使い方等についての研修を行った。 ①-2 各研究課員によって、一人10項目程度の「具体例」追加していくことができた。 ①-3 教員間での研修を行うことはできなかったが、職業課の担当者と内容のすり合わせの進め方について相談を行った。 ②-1 各学部で研修担当を配置することで、担任をサポートしていくことができたが、研修担当リーダーは学部が違っていたためサポートが十分にできていないことが多かった。 ②-2 小学部は、AI-PACのコンサルテーションを9月・12月・1月に実施した。3事例で取り組み、それぞれ新しいスキルを習得するなど指導の成果があった。また、中学部では、不登校に関する取り組みのコンサルテーションを9月・2月に実施し対応に悩んでいる1事例について講師のアドバイスを受けながら教員間でアイデアを出し合い検討し共有する機会をもつことができた。高等部では、自立活動のテーマに沿った学部間での取り組みとしてコンサルテーションを9月・1月に実施し、教員が対応に悩んでいる事例や学部の中で取り組んでいると考える共有ファイルについて講師のアドバイスを受けながら検討し共有する機会をもつことができた。	総合評価 (評定) B (所見) ①指導内容系統表については、昨年度の課題をもとに、系統表の中にさらに短期目標の「具体例」を取り入れ、全学部の教員の活用に取り組んだ。「分かりやすくなった」という回答が多くあり、実際すすめていくにあたって、さらに具体例の追加が必要であると考えられた。また、卒業後の生活を考えやすめていくにあたっては必要とする目標と系統表の内容にずれがある。(高等部)という意見に対しては、再度、進路別チェックリストと系統表から精選し、高等部の生徒を対象とした系統表の検討を図っていく必要がある。 ②専門家派遣事業(コンサルテーション)では、小学部・中学部でAI-PACの取り組みを進めることができ、高等部では、卒業後の進路を考えた指導をすすめていくにあたって、課題となる点について講師のアドバイスをいただきながら、教員間で共通理解する時間をもち、共有することができた。	① ② ③

* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった